

三叉神経痛、顔面けいれん、舌咽神経痛に対する微小血管減圧術

高齢化社会においては生命の長さに加え生活の質が重要となってきています。脳神経外科においても痛みなどを扱う機能外科の重要性がより高まっています。そこで当院でおこなった微小血管減圧術についての成績を公表いたします。

<症例> 1997年以降、三叉神経痛や顔面けいれんに対して16例に微小血管減圧術を施行しました。年齢は37歳から82歳、女性14例、男性2例、三叉神経痛8例、顔面けいれん7例、舌咽神経痛1例です。基礎疾患として1例では脳動脈瘤、1例では類上皮腫をともなっていました。

<成績> 1：最終的には全例で治療効果を得ています。2：再発は2例です。1例は類上皮腫をともなった例で剥離すべき血管が極めてわかりにくかった例でした。1例では後の検討では血管の確認が不十分な症例でした。3：3例で合併症をきたしました。聴力障害、動眼神経麻痺、外転神経麻痺が各1例でした。その原因は82歳の高齢、類上皮腫、動脈瘤の合併でした。

<結論> 血管の単純な圧迫の場合には血管を確実に遊離とすることにより全例に治療効果を与えています。